国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム '99.3

◎特集　「東南アジア青年の船」第25回記念事業
速報　総務庁青少年国際交流事業の募集について

vol.27

㈶青少年国際交流推進センター

◀ 国旗掲揚式

第25回東南アジア青年の船 —1998.9.29～11.25—

「東南アジア青年の船」第25回記念事業

～1998.11.24～

（本文P.5～P.6）

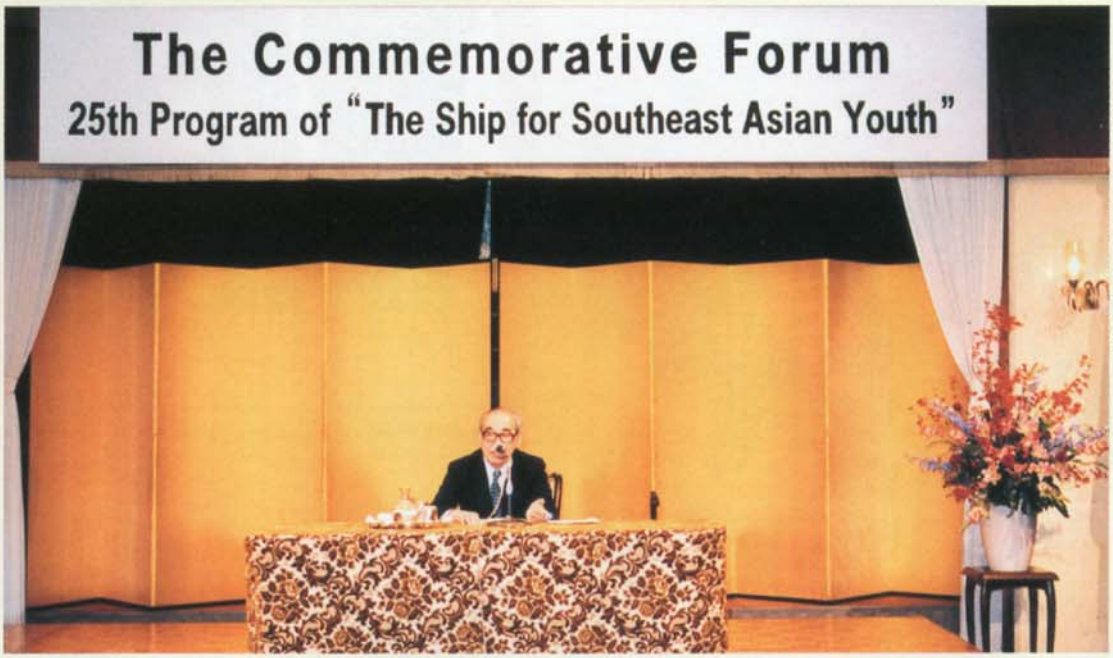
◀ 今年度の参集国であったフィリピンの参加青年に囲まれて笑顔の小渕恵三内閣総理大臣（レセプション会場にて）

「東南アジア青年の船」は、昭和49年（1974年）の日本と東南アジア諸国との共同声明に基づいて始められた事業です。

昭和60年（1985年）の第12回からはブルネイ・ダルサラームが加わり、第23回には、ヴィエトナムがアセアン加盟に伴って正式参加国として加わりました。今年度は、ラオスとミャンマーが正式参加国となりました。

「第25回東南アジア青年の船」は、東南アジア10か国（ブルネイ・ダルサラーム、インドネシア、マレイシア、シンガポール、タイ、ヴィエトナム、ラオス、ミャンマー、カンボディア）の青年305名と日本の青年33名、計338名が約60日にわたって船内で生活を共にしながら、参加国を訪問しました。

船内では、ディスカッション、各国事情の紹介、スポーツ、クラブ活動などを行い、訪問国では、その国の青年との交流、ホームステイ、施設見学、奉仕活動などを行いました。



◀ 第25回記念フォーラムで講演する慶應大学石川忠雄名誉教授

エッセイを発表するインドネシアのエッセイ・コンテスト優勝者 ▶

▲ 午前中に行われた第25回「東南アジア青年の船」事業へのエヴァリュエーション分科会 ▶

船内活動

▲ ディスカッション

▲ 日本出航にあたり、来賓代表で挨拶をする
日本青年国際交流機構酒井会長

▼ クラブ活動

▲ スポーツ活動

▶ ナショナル・デイ（ラオス）

「東南アジア青年の船」第25回記念事業

～アセアンとの友情を永遠に～

「東南アジア青年の船」第25回記念事業として「記念フォーラム」を行うにあたり、ASEAN 9か国の政府代表者と7か国の同窓会代表者が招へいされました。また、最終寄港地ホーチミンから乗船し、同窓会活動についての説明を行った「東南アジア青年の船」既参加青年連携強化会議（OBSC）の各国代表者も、会議終了後引き続き、このプログラムへ参加しました。

「東南アジア青年の船」第25回記念フォーラムは11月24日、赤坂プリンスホテルのロイヤルルームで14時から行われました。このフォーラムには、ASEAN関係各国大使館代表者及び政府代表者、関係青少年団体代表者、第25回「東南アジア青年の船」のナショナルリーダー及び参加青年、SSEAYP Internationalが第25回記念事業として行ったエッセイコンテストの各国優勝者等が出席しました。

フォーラムの第1部は、日本青年国際交流機構による実行委員会によって作成されたパソコンを使用した、ビジュアルプレゼンテーションから始まりました。これは、「東南アジア青年の船」の歩んできた25年間の歴史や既参加青年の同窓会組織を分かりやすく説明したものです。

その後、日本政府を代表して阿部正俊総務庁政務次官からの挨拶があった後、25年前に参集式を行ったタイ政府を代表して、プラシット・ダムロンチャイ（Mr. Prashit Damrongchai）総理府事務次官からご挨拶を頂きました。引き続き、各国同窓会を代表し、今年度の参集国であったフィリピンより、マリリン・ゴヨネチェ（Ms. Marilyne Goyoneche）同窓会会長から挨拶がされました。また、現役参加青年からはブルネイのユースリーダーによるスピーチが行われました。

********** 主 な 内 容 **********

「東南アジア青年の船」
第25回記念事業 ……5～7
絵で結ばれる子供たちの輪 ……8～9
感動をステップに ……10～11
（国際青年育成交流に参加して）
平成11年度総務庁青年国際交流事業
募集について ……12～13
大きな栗の木の下で、国際交流 ……14～15
第11回SIGA ……16～17
著書紹介／全国大会のお知らせ ……18～19

〈表紙の説明〉

「第8回世界青年の船」
～上岡弘二団長 写真展～
"青春群像'96"の作品より

▲ Ms. Marilyne Goyoneche

第２部には、石川忠雄慶應義塾大学名誉教授（㈶青少年国際交流推進センター会長）による「魅力ある国日本とは？」という演題で基調講演をいただき、参加者一同、熱心な講演に耳を傾けました。

第３部では、共通テーマを「21世紀のアジアのリーダーシップ」として各国同窓会で行ったエッセイ・コンテストの優勝者計８名によるエッセイの発表が行われました。このエッセイ・コンテストは、３年前にSSEAYP Internationalの各国会長会議の際に、「東南アジア青年の船」第25回を記念した各国同窓会組織の共通活動として行うことを決定したものです。その後、各国同窓会が自国で行ったが、各国様々な事情がある中で、オブザーバー参加であるベトナムを含む８か国の足並みが揃ったことは、同窓会としての活動の中でも大きな成果の一つと特筆されるべきことだと考えます。

閉会にあたっては、シンガポール同窓会会長でOBSCの代表者で来日した、タン・スー・ホー（Mr. Tan Soon Hoe）氏からの国際交流事業や国際交流活動の大切さを訴えた力強いスピーチでフォーラムの幕を閉じました。

18時からは、記念パーティが赤坂プリンスホテルのクリスタルパレスで行われました。

小渕内閣総理大臣が出席し、日本政府を代表してご挨拶をされました。小渕内閣総理大臣は、1974年に「東南アジア青年の船」を開始するにあたって、田中内閣総理大臣がインドネシア共和国、マレイシア、フィリピン共和国、シンガポール共和国及びタイ王国を訪問した際の共同声明を受け、総理府総務副長官として、これら関係５か国を訪問し、日本側の実施素案について説明するとともに、各国政府の協力を要請するという任務を務められた経緯があります。小渕内閣総理大臣は、スピーチの中で、午前中の各国ナショナルリーダー表敬訪問の際に、その経緯を知ったナショナルリーダーから、「東南アジア青年の船の父」と呼ばれたことを披露するとともに本事業の継続を約束されました。

その後、各国参加青年からパフォーマンスが披露され、最後に全員で「にっぽん丸」ソングを合唱して、第25回記念事業は成功裏に終了しました。

エッセイ・コンテストのアセアン各国優勝者 ▶

「東南アジア青年の船」事業の特色の一つに、全ての訪問国でホームステイが組まれていることがあります。ホームステイは、お世話になる側はもちろん、受けるホストファミリーにも多くのものを与えてくれるのです。

日本では、8グループに分かれて各地でお世話になりましたが、その一つ奈良県で初めてホームステイを引き受けて下さった「赤松さん」の感想文を紹介します。

「東南アジア青年の船」ホストファミリーを経験して

赤松　美佳（生駒市）

ホームステイのお話をいただいた時は「はい」と一つ返事をしたものの、外国の方のお世話をするのは初めてで、後から少々不安になっていました。都合で受入れ家庭対象に開かれる事前説明会にも参加できず、歓迎レセプションの日を迎えました。

でも、そこで待っていたのはにこにこと親しげな微笑みの二人の青年で、会って間もなく「外国の人」という壁と不安は消えました。同じ東洋人というのも手伝ってか、次々と話しは弾み2泊3日の短い滞在だったとは思えないくらい仲良くなれたような気がします。

タイのダンスを一緒に踊ったり、一緒にお茶をたてたり、食事の準備をしたりと盛り沢山で少々忙しい滞在だったと思いますが、最後に「楽しかった」と言われとても嬉しかったです。

長旅の後にも関わらず、笑顔を絶やさずに色々な事を話して聞かせてくれたロジャーさんとオウさんに感謝しています、また、国際交流とは、思っている程に難しいことではなく、思っていた以上に素敵なことであると感じました。また、このような機会があれば、積極的に関わっていきたいと思っています。

最後に、このようなチャンスを与えてくれたスタッフの皆さんにも感謝致します。
（さよならパーティでいただいた手作りお菓子、とっても美味しかったです。）

絵で結ばれる子供たちの輪

兵庫県青年国際交流機構事務局長
針生　寿勝

1995年1月17日に起きた阪神大震災の際には、大きな打撃を受けた神戸に、IYEOのメンバーを含む多くの方々がボランティアとして来て頂きました。

街中が少し落ち着きを取り戻した頃に、IYEO本部より、「IYEOのメンバーを始めとして、「世界青年の船」の外国青年からのものを含めた寄付金が集まった。それほど多額ではないが、何か形に残る使い方ができないだろうか。」との相談がありました。

▲ トニー先生の小学校訪問

そこで、出来ることなら、心の傷がまだ癒えていない未来ある子供たちの為に使いたいと考えました。大きなイベントや海外へ行ったりするだけの金額ではありません。しかし、みんなからの大切な気持ちを無駄にしたくないと思う中で、オーストラリアの学校の校長先生で、「第7回世界青年の船」で指導官を務められたアンソニー（トニー）さんの協力により、オーストラリアのブリスベーン市と神戸市の小学校の間で絵の交換を行うのに使おうということになりました。各機関等の協力を得ることができ、「日豪小学生の絵の交換」という形で計画がスタートしました。私自身、かつて日豪間の文化交流に協力してきた関係もあり、話はを進めるのに苦労しがらも、様々なノウハウを活用し、最初は、神戸市の小学校からブリスベーンの相手側の学校へ絵を送ることにしました。神戸の子供たちに、自分から行動することから初めて欲しいと考えたからです。

また、実行の前にトニー先生も来日して神戸にも足を運んで下さり、各地を見たり、神戸の実情や学校を見学して下さいました。その後、私も休みを利用して訪豪し、ブリスベーンの小学校を見学させてもらいました。

日本の学校とは違い、開放的でのんびりとした感じを受けました。目や肌、髪の色の違う多民族国家の学校らしく、いろいろな子供が元気いっぱい走り回っていました。

また、外国語（日本語）熱はすごく、小学校の頃から「ひらがな」を勉強出来る時間がありました。小さな子供が自在にパソコンを使っていたりと日本との違いを感じた、オーストラリアの小学校訪問でした。

◀ブリスベーンへ贈った日本の小学生の絵

この交流は、日豪両国の子供たちが、異なるお互いの学校生活を絵で分かり合うことができるとともに、我々IYEO兵庫やボランティアのメンバーも、絵に書いてある解説文を訳すことによって、作品ごとのオリジナリティー、各国独特の生活、文化を知る大きなきっかけとなりました。

今後も、継続して行けたらと考えています。

▼ 日本へ贈る絵を描こうネ

▼ 日本語も習えます。右上に「ひらがな」の表が

感動をステップに

「航空機による派遣事業報告会」実行委員長
永田　健二
（平成10年度「国際青年育成交流」ドイツ派遣団員）

◀ 報告会会場にて総務庁青少年対策本部の林調査官（左から２番目）と歓談する筆者（左）

平成10年９月、総務庁「国際青年国際交流」事業が実施され、私もドイツ派遣団の一員として９月１日から23日までドイツ連邦共和国を訪問した。現地での体験や、帰国後の報告会実行委員長として感じたことについて述べたい。

環境意識の違い

今回の「国際青年育成交流事業」の共通研修テーマは「環境」であった。現地でのプログラムはそのこと配慮したものとなっていた。私たちは、主にドイツ北部の地域（メクレンブルク・フォアポメルン州、シュレビッヒ・ホルシュタイン州）を訪問した。この地域は「コウノトリ」の生息地として有名は、平原地帯である。コウノトリはヨーロッパでは「赤ん坊を運ぶ鳥」という伝説があり、その伝説は日本でも有名である。家屋の装飾、とりわけ屋根の上などにコウノトリのレリーフをしばしば見かけた。

ところで、私たちは「環境保護」という視点から、これらの地域の自然公園を何度か散策した。

個人的なことになるが、私は実家が山梨なので比較的自然と接した生活をしていたのだが、大学入学後は自然とふれあう機会があまりなかった。そんな折り、ドイツでの自然公園散策は私に多くの感動を与えてくれた。

ここで、紹介したいのは、ドイツ人が「自然との調和」を目指した環境保護に徹していることである。自然公園を作るために立派な道路や駐車場を作り、半ばレジャー施設を作るのではなく「自然のままに自然を残す」のである。

現地では、「まだ歩くの？」と言いたくなるくらい歩いたが、それだけに素晴らしい自然を感じることができた。雨が降ってきた時、私を含めた日本人団員は早くバスに戻りたいと叫んでいた。それとは対照的に、案内してくれたドイツ青年たちは雨に打たれて、自然の恵みを感じていた。これが「自然」というものに対する意識の違いであった。それが、分かっただけでもあの疲労は無駄にはならなかった。

帰国報告会に向けて

ドイツの自然との出会いから、1か月が経過していた。「国際青年育成交流事業」、「日中、日韓青年親善交流事業」で他8か国に派遣されていた日本青年と合同で帰国報告会を企画することになり、実行委員会を組織した。10月下旬の第1回実行委員会には、他人事のように参加していたが、まさかの実行委員長になった。もともと、イベント好きな私だったが、今回の報告会は格別にやりがいがあった。

それは、多くの他の団員と知り合えたからである。派遣団の年齢層は比較的幅広いが、実行委員は学生が多かったせいか、毎回の話し合いでは、気兼ねなく議論できた。

実行委員会では、この報告会を「事後活動の第一歩」と捉え、自分の経験を多くの人に伝え、また新たな出会いの場とすることを目的とした。

他団員との交流や、IYEO関係者、そして一般の参加者との交流は、普段なかなか出来ないものである。そこで、今回の報告会で何とかそれらの目的を実現したかった。

具体的には、報告会を、「見たい！聞きたい!!話したい!!」～セカイノ散歩～と題し、「私たちの軌跡…そして奇跡」及び「他国を知るワークショップ」という2つのプログラムを中心に据えた。

前者は、昨年度1年間を振り返りながら、実行委員が国際交流事業に参加する過程で関係した様々なプログラムの紹介をすると同時に、各団からの発表も行い、一般の方にも分かりやすく国際交流事業を紹介するというものである。後者のプログラムでは、参加団員全員で9つの小グループを作り、「友好・親善」と「環境」をテーマに会場にいる一人一人が情報発信者となり、各国の実情等について、意見交換を行った。

企画にあたって、実行委員会では、議論に議論を重ねて本番までこぎつけた。特にワークショップについては、自分が深く係わったこともあり、参加者の反応が気になったが、私がファシリテーター（ワークショップを円滑に進める役割の人）を務めたグループに感想を聞いたところ、多くの人が満足していたようなので安心した。

報告会を全体を総括してみると、今年度参加団員は約95名が全国各地から集い、一般参加者も含めて会場を一杯にしてくれた。細かい反省点はあるものの、成功だったと、実行委員ともども自負している。

当日まで共に頑張ってきた実行委員の仲間、そして当日参加してくれたすべての人に感謝している。この感動をステップに、次の活動そして次の目標に向けて頑張りたい。

▼ 自然公園シャールゼェ湖にて自然保護官のMeier氏と湿地帯を見学

総務庁青少年国際交流事業の参加青年募集

総務庁の行う青少年国際交流事業は、日本と諸外国の青年の交流を通し、相互の友好と理解を促進し、広い国際的視野と国際協力の精神を有する次代を担うにふさわしい青年の育成を目指しています。

全国の青年の皆さんが、この事業に積極的に参加し、帰国後もその経験をいかして地域、職域、学校又は青少年団体等において国際交流活動、青少年活動などを活発に行い、社会に貢献されることを期待しています。平成11年度の事業概要、応募資格等は次表のとおりです。

		航空機による青年の海外派遣			世界青年の船	東南アジア青年の船
訪問国		ブラジル、チリ、デンマーク、エクアドル、フィンランド、タイ、ジンバブエ（うち1か国）	中国	韓国	セイシェル、南アフリカ、タンザニア、オマーン、南西アジア、アフリカ、中近東、ヨーロッパ、オセアニア、北・中・南米地域の青年約150人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問	ブルネイ、インドネシア、マレイシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴィエトナム、ラオス、ミャンマーを含む東南アジア9か国の青年約300人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問
実施時期		平成11年9月～10月			平成11年9月～10月	平成11年10月～12月
期間		約25日間	約20日間	約15日間	約50日間	約50日間
募集人員		各 約8人	一般団員 中国 約25人 韓国 約35人		約120人	一般参加青年 約35人
			渉外団員 各2人			渉外青年 約10人
資格要件	年齢	18歳～30歳（昭和43年4月2日～昭和56年4月1日に出生）	一般団員：18歳～30歳（昭和43年4月2日～昭和56年4月1日に出生）		18歳～30歳（昭和43年4月2日～昭和56年4月1日に出生）	18歳～30歳（昭和43年4月2日～昭和56年4月1日に出生）
			渉外団員：概ね25歳～35歳			
	青少年活動等	帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行える者				
	語学力	交流活動を円滑に行える英語力を有すること	一般団員：訪問国の公用語による簡単な日常会話能力があれば望ましい		交流活動を円滑に行える英語力を有すること	
			渉外団員：訪問国の公用語で任務を遂行できること			
	その他	国の行う同種の事業に参加したことのある者の応募は不可（ただし、渉外団員・渉外青年への応募はこの限りではない）				
研修実施時期	事前	7月中旬の約5日間（於：東京）			7月上旬の約5日間（於：東京）	8月下旬の約6日間（於：東京）
	出発前	出発直前の約2日間（於：東京）			出航直前の約4日間（於：東京）	出発直前の約3日間（於：東京）
	帰国後	帰国直後の約2日間（於：東京）			帰国直後の約2日間（於：東京）	日本国内活動直後の約2日間（於：東京）
個人負担経費		約7万円			約30万円	約30万円
		〔内訳〕研修費（事前、出発前、帰国後）、片道航空運賃（船事業のみ）、渡航手続費用、旅行保険料等（上京・帰郷旅費等は、別途負担）				

総務庁青少年対策本部

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3－1－1 ☎(03)3581－2196（月～金 9:30～17:45）ホームページ:http://www.somucho.go.jp/

平成11年度事業日本参加青年募集担当都道府県主管課一覧

都道府県		主管課名	電話番号	募集期間	中間選考日
1	北海道	総務部知事室国際課 環境生活部文化・青少年室（国際青年の村のみ）	011-231-4111（内21-215） 011-231-4111（内24-513）	3／1～4／5	書類選考
2	青森県	環境生活部青少年課	0177-34-9225（直通）	3／8～4／9	4／23
3	岩手県	生活環境部青少年女性課	019-651-3111（内2771）	3／1～4／15	4／26
4	宮城県	環境生活部青少年課	022-211-2559（直通）	3／1～4／2	4／16
5	秋田県	生活環境部青少年女性課	018-860-1552（直通）	3／8～4／5	4／16
6	山形県	文化環境部県民生活女性課青少年女性室	023-630-2101（直通）	3／8～4／5	4／16
7	福島県	生活環境部青少年女性課	024-521-7187（直通）	3／9～4／9	4／21
8	茨城県	福祉部女性青少年課	029-224-8911（直通）	3／1～3／31	4／16
9	栃木県	生活環境部女性青少年課	028-623-3075（直通）	3／1～3／26	4／16
10	群馬県	教育委員会事務局青少年課	027-223-1111（内4143）	3／1～3／31	4／13
11	埼玉県	環境生活部青少年課	048-830-2912（直通）	3／8～3／26	4／16
12	千葉県	社会部青少年女性課	043-223-2396（直通）	3／1～3／31	4／20
13	東京都	教育庁生涯学習部社会教育課 生活文化局女性青少年部青少年課（国際青年の村のみ）	03-5321-1111（内54-441） 03-5321-1111（内29-532）	3／2～3／20（郵送） 3／23～3／24（窓口）	4／4
14	神奈川県	県民部青少年室	045-201-1111（内3469）	3／1～3／23	4／18
15	新潟県	福祉保健部児童家庭課	025-285-5511（内2512）	2／24～3／29	4／16
16	山梨県	企画県民局青少年女性課	0552-23-1357（直通）	3／15～4／23	書類選考
17	長野県	社会部青少年家庭課	026-235-7130（直通）	3／3～4／5	書類選考
18	静岡県	教育委員会事務局青少年課	054-221-3312（直通）	3／15～4／15	4／23
19	富山県	生活環境部女性青少年課	0764-44-3138（直通）	2／22～3／25	4／12～16
20	石川県	県民文化局女性青少年課	076-223-9111（直通）	3／12～4／12	4／18
21	福井県	県民生活部青少年女性課	0776-20-0297（直通）	3／1～4／9	4／19
22	愛知県	総務部青少年女性室	052-961-2111（内2354）	3／8～4／1	書類選考
23	三重県	生活部青少年私学課	059-224-2404（直通）	3／1～3／31	4／8
24	岐阜県	総務部青少年課	058-272-1111（内2162）	2／22～3／26	4／8
25	滋賀県	教育委員会事務局生涯学習課青少年対策室	077-528-4660（直通）	3／9～4／9	4／18
26	京都府	府民労働部青少年課	075-414-4306（直通）	3／8～4／2	4／12
27	大阪府	生活文化部スポーツ・青少年課	06-6941-0351（内4844）	2／22～3／23	4／6
28	兵庫県	財兵庫県青少年本部青少年交流担当	078-360-8581（直通）	3／1～3／23	4／18
29	奈良県	生活環境部青少年課	0742-22-1101（内3345）	3／1～4／9	書類選考
30	和歌山県	生活文化部青少年課	0734-41-2503（直通）	3／8～4／2	4／18
31	鳥取県	企画部女性青少年課	0857-26-7076（直通）	3／11～4／12	書類選考
32	島根県	健康福祉部青少年家庭課	0852-22-6524（直通）	2／20～3／27	4／15
33	岡山県	生活環境部女性青少年対策室青少年課	086-224-2111（内2543）	3／5～3／31	4／14
34	広島県	県民生活部青少年女性課	082-228-9335（直通）	3／1～4／2	4／13
35	山口県	環境生活部女性青少年課	0839-33-2634（直通）	3／1～3／29	4／12
36	徳島県	企画調整部青少年室	0886-21-2176（直通）	3／1～3／31	4／10
37	香川県	生活環境部青少年女性課	087-831-1111（内2434）	3／5～4／16	4／25
38	愛媛県	保健福祉部児童福祉課	089-941-3434（直通）	3／1～4／2	4／19
39	高知県	文化環境部国際交流課 健康福祉部こども課（国際青年の村のみ）	0888-23-9605（直通） 0888-23-9637（直通）	3／1～4／2	4／12
40	福岡県	環境生活部県民生活局青少年課	092-641-4740（直通）	3／1～3／31	4／19
41	佐賀県	福祉保健部児童青少年課	0952-25-7055（直通）	3／5～4／5	4／19
42	長崎県	教育庁生涯学習課	095-824-1111（内3366）	3／10～4／9	4／16
43	熊本県	環境生活部県民生活総室	096-383-1111（内7408）	3／15～4／9	4／16
44	大分県	生活環境部女性青少年課	097-536-1111（内3045）	3／8～4／5	4／20
45	宮崎県	生活環境部女性青少年課	0985-26-7041（直通）	3／2～4／17	4／20
46	鹿児島県	環境生活部青少年女性課	099-286-2554（直通）	3／1～3／31	4／16
47	沖縄県	文化環境部青少年・交通安全課	098-866-2182～84（直通）	3／1～4／9	4／19

＊都道府県レベルでの試験方法、手続きは異なりますので、受験該当地で確認して下さい。

～大きな栗の木の下で、国際交流～

岡山青年国際交流会副会長
川上　俊久
（第35回日本青年海外派遣南米班団員）

「きれ～いねぇ、ありがとうぉ…」。

私たち岡山青年国際交流会の手作り花壇の前で、入所者の方から思いがけずいただいた胸の奥が熱くなる一言でした。

「施設だけでなく、入所者や作業所の方にも喜んでいただけた！」。そんな感動とともに、知らず知らずに心を通わせているみんなの笑い声が、美しく澄みきった冬空のように高く、とても温かに感じられました。

スウェーデン派遣に続く国際交流活動応用編として、当会は、県共同募金会が初めて公募した福祉活動助成金制度に、市民団体の先駆的・開拓的地域福祉活動施設「のぞみ園」での園芸療法事業案を申請しました。

「花壇設営や植樹だけでは寄贈に当たり、公募条件の福祉活動に該当しない」との助言を仰ぐ等、内容には頭を捻りましたが、佐伯会長の「外国青年を幾度も受け入れていただき、フリーマーケットへも多くの衣料品等をご提供いただいた園へのお礼になる事業を」との意を汲んだ当案（青少年育成と福祉理解…大サジ１杯ずつ。国際交流…小サジ１杯）をまとめ、あの偉大なる「赤い羽募金」から、総事業費の三分の二にあたる７万円の助成を受け、事業を実現しました。

小高い丘にある施設の丘陵地に、栗や柿、みかんやプルーン、さくらんぼ等の果実収穫が望める木を多く植樹し、パンジー（公共施設用苗・大花）やサイネリア等の苗も何百と花壇に植えました。途中、施設長から一足早いクリスマスケーキも頂き、「少しはお礼も出来た」と感じると共に、当会へのご理解も感じられる実りある一日でした。

◀ハンディキャップを超えて実る国際交流の輪!!

▲ この子たちが大きくなる頃には
「大きな栗の木の下で～♬」

▲ 親子で植樹

国際交流活動への協力先のご厚意に甘え、各方面から多大な支援を仰ぐ一方で、なかなかお返しができないでいる現状。今回の事業は、そんな現状に応えた一例とは言えると思います。特に、何年先にも実り続ける果樹は、私たち青少年の活動にも則しているような気がしませんか？

そして、大きくなったこれらの果樹が、きっと「春は桜見物、夏はプルーン収穫、秋は栗拾いに柿狩り。」と四季を問わず今後の外国青年の受け入れの際にも様々な歓迎をしてくれるものと、息の長い期待も寄せています。その時はぜひとも、「大きな栗の木の下で、国際交流～」と、「得意のギター片手に、歌唱指導をしたい」と、今からささやかな楽しみの芽を心に育てています。

※園芸療法…主に、園芸を通し自らの社会性を高める療法の一つ。（花を育てたり、果実を収穫することを通じて、一般の人と自らの能力が変わらない事を認識し、自信につなげる等）

◀ 最後の仕上げに熱心な佐伯会長

11th SIGA

11th SSEAYP International General Assembly (SIGA) in Fontana Leisure Park, Philippines

December 3-6, 1998

シアップインターナショナル第 11 回総会が、12月3日～6日に、ASEAN6か国と日本からのべ120名の参加者を得て、フィリピン共和国クラーク特別経済地区で開催されました。

12月4日の総会では、前回のブルネイでの総会の総括が行われた後、SSEAYP International 事務局次長と各国代表者による活動報告が順次行われました。また、前日(3日)に行われた各国(同窓会)会長会議の報告が、フィリピンの会長より行われました。

総会終了後のワークショップでは、SSEAYP International の活動の柱であるプロジェクトのうち、①国際支援、②ホームステイ、③コンピュータネットワーク、④文化交流の4項目について参加者の興味に応じたグループディスカッションを行ったあと、グループ毎での総括発表を行いました。それぞれの国の実情は異なるものの、7か国の参加者が一つのプロジェクトに対する共通認識を育むことができたと思います。

また、開会式に太田総務庁長官メッセージを林総務庁青少年対策本部調査官が代読したのをはじめ、4日の夕食会には、Ms. Gemma Cruz-Araneta 観光局長官のご出席を頂戴し、講演をしていただきました。閉会式には、エストラーデフィリピン大統領のご子息である、Mr. Joseph Victor Ejercito 氏にご出席及びご挨拶を頂くことができました。

日本からは、総務庁青少年対策本部より林調査官('98 年度「東南アジア青年の船」管理官)と笹森国際交流振興係長が、日本青年国際交流機構より酒井会長をはじめ11名が参加し、総会の他、スポーツ大会やアジアフードフェスティバル等のプログラムをそれぞれに楽しむことができました。

▲総会の議決書にサインをする酒井会長

当初、今回の総会はインドネシアで開催予定でしたが、経済悪化による政情不安定のため、フィリピンで開催することになりました。開催決定から約半年間の準備期間にもかかわらず、充実したプログラムを用意し、温かく参加者を歓迎してくれたフィリピン同窓会に感謝したいと思います。

来年度のSIGAは、シンガポールで8月6日～10日(独立記念日を含む)に開催予定です。みなさんの参加をお待ちしています。

山口県青年国際交流機構では、国際交流事業を多くの方に知ってもらおうと、様々な試みを行っています。その一つに、まだ、総務庁事業未経験の会員からのSIGAへの参加推進があります。竹上さんは、山口大学のESSに所属しており、今回は1人で参加しました。

初めての他国の人々と触れ合って

山口県青年国際交流機構
竹上恵理子

日本に住んでいたら、自分が日本人であるということ、ここが日本であることを意識することは少ない。しかし、今回のSIGAに参加させて頂き、ASEAN各国の人々と触れ合い、私は日本人であるということを意識するようになった。開会式に民族衣装での参加のため、着替えている同じビラの人から、「どうして着物を着ないの？」と聞かれて、「ひとりでは着られないの」と答える私。

三日目、クリスマスビレッジで、日本人がスキヤキソングを歌った。その後、「スキヤキソングの歌詞を教えて」と言われ、詳しくは知らないから、教えることのできない私。

「さくらさくら」を一緒に歌おう！」と言われて歌ってみると、♪さくら　さくら♪の続きを歌えなかった私。

帰国後、「フィリピンは、戦争で反日感情の強い国と聞くけれど、どうだった？」と聞かれ、日本の戦争の話なんて、ほとんど知らないことを認識させられた。

SIGAのあとのホームステイ先で、マニラ大聖堂に連れていってもらった。そこで、現地の参拝者がキリスト像の足にキスするのを見た瞬間、何か不思議な感じがした。「無宗教」の私には決して持ち得ない、神を真に敬う心を垣間みた気がした。

SIGAとホームステイで、多くの貴重なものを得た。SIGAでは眠るのが惜しくて、毎日寝不足になるほど楽しかった。初めは、誰も知り合いがいなくて、不安と緊張でいっぱいの私に、みんなやさしく話かけてくれた。ホームステイでは、異なる社会に触れ、SIGAでは、日本人であることを考えさせられた。すべてが大切な経験だった。

このような機会を与えて下さった山口県青年国際交流機構の会長さんと親切だった皆さんに深く感謝したい。

作家「亜州奈 みづほ」への道

～ ASEAN と韓国 ～

山田みづほ
（第21回「東南アジア青年の船」参加青年）

第21回「東南アジア青年の船」に参加してから、はや4年半が経過しましたが、その間も ASEAN 諸国で見聞きした風物は、アジア原体験として強烈な印象を残し、その後の私をアジア関連の文筆活動を行う道へと進ませました。

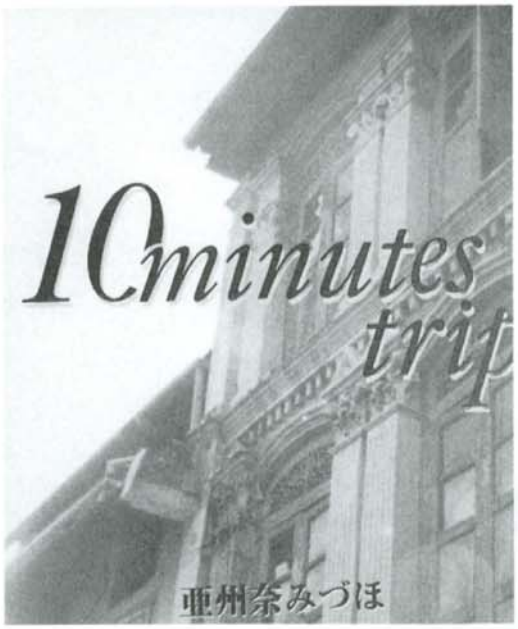
このたび「東南アジア青年の船」の訪問国であるシンガポール・マレイシア・ブルネイを扱った写真小説集『10ミニッツ・トリップ』（ジャパンネイチャーフォトクラブ株式会社）という作品を上梓することになりましたので、ご紹介いたします。

一般的には東南アジア旅行と言えば、バックパッカー風ライターの紀行文などを通じて、混沌とした印象ばかりが強調されがちです。しかし私の中には東南アジア参加青年の問いかけ、「どうして日本のマスコミはスラムや売春など、私たちの影の面ばかりを紹介するの？」がいまだに響いています。

貧困ばかりがアジアじゃない。もっと美しいものがあるはずだ…。夢のような熱帯、はるか南に位置する国々、その街で出会った人々を一般の読者にも伝えられないかという想いから生まれました。三つの短編、“シンガポール・スリング”、“KL（クアラルンプール）の熱帯花”、“ブルネイ、安寧の国” から成り立っています。
小説の翼を借りて、写真の窓から異国の光景をかいま見て頂ければ幸いです。

これに並んでもう一冊、韓国との国際交流事業を舞台にした小説『銀粧刀（ウンジャンド）』を発表することになりました。

従来、日韓の間には業とも言えるほどの複雑な事情が横たわっていましたが、近年、新世代と呼ばれる若者達によって、クールに、自由に、過去のしがらみから解き放たれた交流が繰り広げられようとしています。そんなムーブメントを、ささやかな形ながら伝えたいという趣旨から本書が生まれました。日韓国際交流合宿に集った日韓の新世代6人が繰り広げる、人間模様。カルチャーショックを楽しみつつ、誤解と理解をくり返す、ひと夏のプラトニック・ラブ。本書を通じて読者のかた



が、2002年サッカーW杯日韓共催に向けて、韓国という存在を身近に感じて下されば、これほど嬉しいことはありません。

亜州奈（あすな）みづほ

作家。1997年東京大学経済学部卒業。95年に朝日新聞・韓国東亜日報共催の日韓交流論文で最優秀賞を受賞。著書に『ダブル』（ベネッセコーポレーション）『情熱の受験ダイアリー』（PHP研究所94年）、共著で『日韓交流未来への提言・大人へのメッセージ』（高麗書林95年）などがある。

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構15回全国大会
第6回青少年国際交流全国フォーラム

「岐阜大会」開催決定!!

平成11年度の日本青年国際交流機構第15回全国大会は、岐阜県で開催されることに決定しました。

日本の真ん中・岐阜県は北部の飛騨の山から、南部の美濃の水を総称して「飛山濃水」と言われる素晴らしい景観の地です。

日　程：平成11年12月4日（土）～5日（日）

宿　泊：「岐阜ルネッサンスホテル」（長良川河畔）

記念講演は、国際情勢コメンテーター・PROペマギャルボ氏にお願い出来ました。

世界文化遺産「白川郷」、小京都「飛騨高山」への小旅行も計画し、皆様を温かく迎える準備を進めています。

詳しくは随時お知らせします。

皆様のご参加をお待ちしています！　（岐阜県IYEO全国大会実行委員会）

第25回「東南アジア青年の船」帰国報告会

平成10年度の第25回「東南アジア青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。平成11年度の総務庁青少年対策本部青少年国際交流事業の募集説明も行われますので、総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげて下さい。

日　　時：1999年3月13日（土）　12:30～16:30　（予定）

会　　場：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際会議室

参 加 費：無　料

主な内容：船内及びアセアン各国寄港地（ブルネイ、インドネシア、マレイシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴィエトナム）での活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談、そしてアセアン各国のパフォーマンス等のプログラムが行われますので気軽にご参加下さい。

申込み先：㈶青少年国際交流推進センターの「セミナー係」までFAX又は葉書にてお申込み下さい。
当日参加も歓迎ですので、多くの方に広報下さいますようお願いします。
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町2－35－14　東京海苔会館6F
㈶青少年国際交流推進センター　セミナー係
電話　03－3249－0767　　FAX　03－3639－2436

編集後記

平成10年度が終わろうとしています。

「第11回世界青年の船」も無事航海中とのことです。

1年間で多くの出会いがありました。それらの出会いが豊かに育っていきますように。まもなく、新しい仲間を迎えます。

＊本誌の年間講読をご希望の方は、㈶青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム）　3月号　Vol.27　1999年3月1日発行（隔月発行）
編　集：マクロコズム編集委員会
発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2－35－14
TEL　03－3249－0767
FAX　03－3639－2436
e-mail LDP04056@nifty.ne.jp
編集協力：総務庁青少年対策本部
日本青年国際交流機構
定　　価：198円（本体189円）
印 刷 所：株式会社　絢 文 社
TEL　03－3959－3960

ブルネイで下船する日本参加青年 ▶

寄港地活動

▲ ヴィエトナムにて

▼ ナショナル・リーダーのラオス訪問

▲ インドネシアのホームステイ・マッチング会場にて

▼ タイの第３王女様が船内見学の際、日本青年が茶道を披露 ▼

アジア青年のつどい

—11.17～11.19—

日本国内プログラムにおいて、一般青年と事業参加青年が交流する場として行われている事業。2泊3日で交流会、課題別視察、富士山見学等が、国立オリンピック記念青少年総合センターを主な会場として一般募集の日本参加青年を加えて実施され、ボランティアの青年たちによって構成された実行委員会により運営された。

▲ 楽しく過ごした交流の夕べ

課題別視察

▲ 新宿区立花園小学校

▲ 新宿区立東戸山小学校

▼ 新宿区立四谷第一中学校

▼ 頑張りました。実行委員会の主なメンバー